
BlueSuedeShoes !

森永パピ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BlueSuedeshoes!

【Nコード】

N7839X

【作者名】

森永パピ子

【あらすじ】

ロックンロールを愛する二人の少年の話。

一つめは金のため。

二つめはシヨウウのため。

三で用意ができたなら、さあ行くぜ。

でも俺の青いスエードの靴だけは踏まないでくれ！
何をしたっていいけれど俺の青いスエードの靴だけは！

俺のことを突き倒し、顔を踏んつけたって構わない。

町中に悪口を言い触らしてもいいさ。

でもどんなことをしようとも俺の靴だけには近寄るな。

俺の青いスエードの靴を踏まないで。

CDプレイヤーから流れるのは『Blue Suede Shoes』
不遇なるカール・パーキンス。そして同じく栄光とその影に翻弄
されたエルヴィス・プレスリー。

でも二人とも偉大だったことには違いない。

『ROCK・N・ROLL』

これを演歌だと馬鹿にする奴は、羽根を雀られた痩せっぼちの鶏
野郎だ。

忙しなく髪をつまむ指を動かしながら、カジは思った。

「カジ！ なんしょつとや？ 早よ行こうぜ！ ライブ始まってし
まうやんか」

開場前のフロアから控え室へやってきたのはj.oこと福山丈。艶
光するオールバックに刃物を思わせる眼光。全体的に無駄な肉を感
じさせない。年の割には渋めな声がいつもより尖っている。

「ちょお待ってって！ 前髪が決まらんつたい！ この一本が！」

リーゼントの前髪を一筋、だらりと垂らす。カジにとってここは正念場と言える。

十分くらい文句を垂れながら人差し指と親指でつまんでクリクリと伸ばして垂らす、良くない方向へ向かっている。ダックテイルの立ち上がりも悪い。湿気の多い日は悪魔がカジを笑っているに違いない。

「きさん大概にせえよ」

丈は擦り切れた合皮のソファの上に腰を降ろしてカジの背中を蹴った。

「痛ッ！ きさん蹴るなや殺すぞ！」

カジは勢い良く丈を振り返って睨みつける。

丈はギターを抱えたエディコ克蘭がプリントされた黒いTシャツにロールアップされたデニムを穿いている。靴下はファイアーパターンの赤と黒。

艶あにしてから。

憎らしげに思いながら、再び鏡と向き合った。

満足度65%の出来だが仕方ない。髪型を諦めたのは、ライブハウス『JUDE』の店長兼PA兼マルチプレイヤーのアキラさんに時間がないとどやされたからだ。

「いつまで髪いじっとんか！ ナル（シスト）か？！ 早よ出てこい！」

カジは仕方なくライダーズジャケットを羽織り、愛用のペパーミントグリーンのグレッッチが待つステージへと、丈と共に向かった。

『Peppermint Street』

ギターヴォーカルのカジ、ウッドベースのジョ、ドラムのツトム、キーボードのジンで編成されたロックンロール&ロカビリーバンド。全員が十九歳という若さで、大体がオープンングアクトを勤めるライブが多い。つまりは少しばかり実力があるうとも所詮若輩者ということだ。しかし、それについてはカジもジョーも不満はない。一緒に出るバンドは今風のロックバンドだったり、パンクだったり、

ガレージだつたり様々だが、ライブが出来るだけ有難い。アキラさんはもともとストリートなロックンロールとパンクが好きで、カジたちを可愛がつてくれている。明太ロックの雄ルースターズの話で盛り上がる事もあった。

ステージ裏に行くと、暗闇の中でもうすでに登場曲の『Rock This Town』が流れている。

お馴染みのストレイキャッツバージョンではなく、ベーシストのリー・ロツカーがセルフカバーした方だ。マイナー調のセクシーでダーティーな魅力に溢れたアレンジは流石だと思う。

曲がフェイドアウトし、カジは声を張り上げた。

オープニングはストレイキャッツの『Fishnetstock
ing』

待ち構えていた最前列のロックンローラーとロカビリアンがここぞとばかりにキレのあるステップを踏みだす。お決まりの振り付けをする奴もいれば、曲に任せて身体を揺らす奴もいる。うまい下手なんて関係ない。リズムに身体が動けばそれでいい。

マイクに向かって唾を飛ばしながらも、真ん前で踊る観客に釘付けになっていた。

楽しんでるか？ 俺は最高に楽しいぜ！ そんな思いを込めて歌った。

演奏を終わらせて最高の気分で控え室に戻ると対バンのポップロックバンドが談笑していた。一見大人しそうな彼ら（実際、有名国立大学の学生だ）は、机を囲んでペットボトルのお茶に焼酎を混ぜて飲んでいた。

「なん？ 今の。リーゼントとか革ジャンとか、だつせえ」

ナチュラルな長めの黒髪を指でかきあげながらボーカルが笑った。ストラトキヤスターを持ったこざっぱりしたパーマヘアが同調する。「なあ。前で踊りよった奴らもおっさんおばさんが殆どやったやん。

てか、なあん？ ツイストで。だっさあ」

控室にシールドを忘れたカジと、一緒にいた丈がそれを聞いて烈火の如く怒った。

「きさまこの！！ もいつぺん言ってみい！！」

カジは悲しくなり何も言わなかったが、丈は違った。いかにも軟弱そうな制服のようなカーデイガンを着たギタリストの襟首を掴んで殴りかかるうとしたのを、カジが後ろから羽交い絞めにした。

「相手にすんなや。な？」

暴れ狂う猛獣を宥めるように耳元で言い、肩の辺りを何度か叩いた。

「うつせえ！！ 陰口叩くなら目の前で言えや！！ いつでも聞いちやあぜコラ！！」

丈の剣幕にベースリストは内股で諤々と震えていた。

「見てみ。内股やぜ？ 女ん子みたいやんか。可哀想やけん、しちやんな」

丈は舌打ちをしてギタリストを突き飛ばす。

「なあ、丈。もしここで問題起こしたらさ、もうライブできなくなるかもしれないぜ。アキラさんに迷惑かけるやん。それだけはやめとこうぜ」

丈はカジの言葉に唇を噛むと、もごつと顎を動かしてギタリストの髪に唾を吐いた。

「きさまの薄か髪やったらこれで充分固まろう」

一睨みして踵を返し、控え室を出る。カジはやれやれと首を振って後に続いた。

ドアの脇にアキラさんが立っていて、カジの肩に手を置いた。そして控え室にはいつていく。

「おまえら俺も踊りよったの知らんかったとや？ おっさんで悪かったのお」

幾分冗談めかした脅し口調だったが、リハの時の鬼のような形相を知っているカジは苦笑した。

「音楽を馬鹿にするようなやつはハコ貸さんぞ？」

上擦った声で詫びているのが聞いて笑いが止まらなかった。ただでさえここじゃ高学歴者は虐げられているのに、純粋なロックンロールを馬鹿にしたとあっては彼らへの風当たりはますます厳しくなるだろう。

音楽は人を差別しない。区切りや境をつけたがるのは人の方だ。重要なのは音を楽しむこと。そんな気分になれる日は最高の演奏ができたということ。

フロアへと続く廊下の隅っこで丈が腕組をして壁に寄りかかっていた。客席に行けば女の子に囲まれ酒を奢ってもらえるのに。カジはだれてきた前髪をコームで上げながら丈の隣に立った。

「ここ出たらぶちかまそうぜ」

丈に耳打ちしてニヤツと笑う。

「ライブハウスでやらんどきや問題ないやろ」

丈が意味を察して悪い笑みを返した。

「偉大なるロックンロールを馬鹿にしたやつには肅清を」

「カジ。それおまえの悪い病気ぜ」

「エルヴィスがいなけりや、ビートルズなんていなかった」

カジも壁に寄りかかり腕を組んで宙を仰いだ。

「そりゃあわからん。別のヤツが出てきとったかも知れん」

「なんだっていい。俺のブルースエードシューズを踏むヤツは許せねえ」

「それ、カール・パーキンスやるーが」

丈はカジの肩を抱き、ばしばし叩く。

「行こうぜ。ぶちかます。おりこうさんのにわかロックなんか聴きたくねえ」

「あれだつてお前の大好きな音楽やろうが」

丈が苦笑する。

「そつやっただけ？ 知らん」

フロアに出ると、さっきまでフロントで踊っていた観客が二人を

出迎えた。

ステージ上ではさっきの奴らがたどたどしいMCを始めている。カジと丈はバーカウンターでウィスキーコークとビールを奢ってもらった。

退屈な音楽なら音の無駄。そんなものはいらない。

「それでは俺たちの歌を聞いてください。ノーミュージックノーライフ」

イントロと同時にカジと丈は吹きだした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7839x/>

BlueSuedeShoes !

2011年10月21日11時09分発行